

『溪谷の秋』川畠 照代 画

理 念

- 安心・安全・やすらぎ・心のこもったサービスを提供します。
- 地域・住民・患者から評価・信頼される医療を提供します。
- 絶えざる改善と生涯教育を継続し、職員個々の能力を向上します。

運営方針

- 整形外科の専門病院として、良質の医療を提供できるように最善の努力をします。
- 患者、利用者の権利を尊重し、インフォームド・コンセント(説明・同意・納得)を含む安全管理を徹底します。
- 「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」の精神を尊重します。
- 社会の変化にしなやかに対応しながら心技態を切磋琢磨し、全人間的な成長を目指します。
- 地域の皆様の健康と生命を守るために最善を尽くします。
- 職業を通じて地域社会に奉仕し、地域の社会的共通資本として認められるように努力します。
- 高齢化社会を迎え、安心・安全と心のこもった医療・介護を提供します。



院長 川崑 眞之

社会医療法人 玄真堂 川崑整形外科病院

10月8日は「骨と関節の日」 ～コロナ禍でのロコモ対策～

日本整形外科学会は、1994年(平成6年)に10月8日を『骨と関節の日』と決めました。これは国民の皆様にも、整形外科の行っている医療の内容をよく知っていただき、骨と関節を中心とした体の運動器官の健康が、体の健康の維持にいかんが大切であることを認識し、日常生活で注意していただきたいとの思いから始まりました。『ホネ』の『ホ』は十と八にわけることができ、当時の体育の日にも近かったことから、記念日を十月八日と定められました。

昨年は大分市にて開催する予定でしたが、コロナ禍のため開催はできず、今年も残念ながら中止となりました。

厚生労働省の調査では65歳以上の、特に女性においては要介護となる主な原因の約30%が、骨折・転倒・関節疾患(運動器の障害)であり、認知症や脳血管障害より多いともいえます(なお男性は脳血管障害が20%強で最多となります)。現在、健康寿命(自立した生活ができる寿命)と平均寿命の差が約10年あることから、できるだけ健康寿命を延ばしてこの差を縮めることが課題となっています。

例年、この時期になると全国各地で整形外科医が中心となり、講演会をはじめ骨密度測定、健康相談などの啓蒙活動が行われてきました。大分県でも大分県臨床整形外科医会・大分県整形外科医会、そして製薬会社(大正製薬・帝人ファーマ)との共催で、年毎に県内各地を巡回して講演会等のイベントを開催しています。私は現在、大分県臨床整形外科医会でのイベントに関わる委員を担当しており、2019年には中津市でも文化会館にて市民公開講座や骨密度測定、ロコモ体操指導、医療相談を行いました。

「立つ」「歩く」といった機能(移動機能)が低下している状態のことをロコモ(ロコモティブシンドローム)といいます。足腰が衰えロコモとなり、高齢者では、転倒して股関節の骨折をきたすと、手術を行ったとしても寝たきりから肺炎などの合併症をおこすことによつて、1年で1〜2割の方が亡くなるということが報告されており、そうでなくとも介護が必要になったりして、健康寿命に大きくかわってきます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、多くの人々が自宅での自粛を強いられました。継続していたりハビリがやむを得ず中断となった方も多かつたと思います。日本臨床整形外科学会によると、新型コロナウイルス自粛後の運動機能低下についての調査では、「つまり、40代から年代とともに増えていき、80代以上では31%でした。「速く歩けなくなつた」と答えた人は、更に多く、70代では37%、80代以上では47%にものぼっています。もし片脚で40cmの椅子から立ち上がれなければ、ロコモと判断されます。更にテストすることでロコモ度が判定できます。ロコモを予防するためにはロコトレが推奨されます。ロコトレは「開眼片脚立ち」と「スクワット」の2つの運動を毎日続ければよいとされています。また余力のある方は「ヒールレイズ」「フロントランジ」という運動もあります。詳しくは、インターネットなどで「ロコモ」を検索して頂くか、当院でご相談いただければと思います。

毎日健康な生活を続けるには、背骨・手・足などの全身の運動器官を造りあげている、骨・関節・筋肉・靭帯・腱・脊髄・神経などがうまく働いてくれることが大切です。また骨にはカルシウムを蓄えたり、血液を造るといった重要な働きもありません。さらには全身の臓器間ネットワークにおいて骨代謝のみならず、他の臓器ともお互いに大きな影響を及ぼし、活発に活動していることも近年分かってきています。

「骨と関節の日」を機会に、皆様ご自身の骨と関節についてご興味を持っていただければと思います。

八面山と私

社会医療法人玄真堂

川島整形外科病院

理事長 川島 真人

去る5月3日、中津市八面山平和公園で毎年執り行われている「日米戦没者慰霊の集い」に出席した。コロナ禍ということから数々の資料が届けられ、1972年に八面山平和公園記念館が建設され、清源敏孝氏や楠木正一氏たちによって維持されて来た。今回の「日米戦没者慰霊の集い」には在福岡米国領事館のジョン・テイラー首席領事ご一家が出席され、敬虔なる祈りを捧げられた。その後、墜落地点に足を延ばし、28年前、私の友人で元米国海洋気象局部長・元ホワイトハウススタッフであったウィリアム・ブッシュ博士が植樹した桜と記念碑を見学した。(図2)更に、中津城の蘭学展示場や福澤記念館を視察され、最後に当院の「かわしまメモリアルミュージアム」を視察された。(図3)当院と米国等全世界の方々との学術交流資料や私の父親の戦争資料などを見ていただき、大きな感動を得たといつて福岡にお帰りになった。

義氏たちが中心となり慰霊碑を建て、植樹をして公園の整備が始まった。(図1)地元や米国から数々の資料が届けられ、1972年に八面山平和公園記念館が建設され、清源敏孝氏や楠木正一氏たちによって維持されて来た。今回の「日米戦没者慰霊の集い」には在福岡米国領事館のジョン・テイラー首席領事ご一家が出席され、敬虔なる祈りを捧げられた。その後、墜落地点に足を延ばし、28年前、私の友人で元米国海洋気象局部長・元ホワイトハウススタッフであったウィリアム・ブッシュ博士が植樹した桜と記念碑を見学した。(図2)更に、中津城の蘭学展示場や福澤記念館を視察され、最後に当院の「かわしまメモリアルミュージアム」を視察された。(図3)当院と米国等全世界の方々との学術交流資料や私の父親の戦争資料などを見ていただき、大きな感動を得たといつて福岡にお帰りになった。

ある日米宇宙・潜水・高気圧環境医学会の専門委員として参加してきた。1993年11月20日、ウィリアム・ブッシュ博士と私の学友で東京医科歯科大学の眞野喜洋名誉教授が中津を訪れた折、歓迎会を八面山のバーベキューセンターで鈴木一郎元市長や職員とともに開いていたとき、私の恩師である松山均先生と松田一臣先生(八面山平和愛

好会)が来られ、B29落下地点に桜を植樹してほしいという提案があり、急きよ会場を移動して桜の植樹を行った。(図4)その後、松山先生の案内でブッシュ博士とともに初めて八面山平和公園記念館を見学した。(図5)私はこの時、八面山平和公園、同記念館の大変な歴史を知ることとなり、以後今日まで関心が薄れることはない。その後、ブッシュ博士はメリーランド大学副学長補佐などを経て退職後も毎年のように桜の成長状況を見て来られるので、私は毎年桜の写真をメールで状況をお知らせすることを続けている。



図1. 戦死者11名の碑銘八面山

私は、1973年以来、2年毎に開かれてきた政府間会議で



図3. テイラー首席領事当院訪問



図2. テイラー首席領事と慰霊祭

2005年5月13日にB29乗員の一人で墜落死したバルサー軍曹の長男ジェリー・バルサー氏がお孫さんとともに慰霊の集いに出席されることとなった。この時、中津市からの依頼で私が通訳を務めることとなり、初めて「慰霊の集い」に出席することとなった。(図6)以後、ほぼ毎年出席させていたでいて、ジェリー・バルサー氏は、何らかの情報で父上の戦死地点を確認するため来日していたところ、現地で慰霊祭が毎年行われていることを知り出席されることとなった。敵味方なく供養

たが、墜落地点に案内した時には感極まり記念碑に抱きつき涙にむせび咽咽されていたことが印象的であった。その後、バルサー氏から情報を得たマイク・バーグ氏がこの八面山の戦跡に関心をもち、本にして出版したという希望を私に寄せてきた。既に日本に在留していた子



図5. ウィリアム・ブッシュ博士八面山平和公園記念館見学



図4. ウィリアム・ブッシュ博士植樹

供さんたちを通じて調査にも来ているようであったが、記録の解説をして設立の趣旨など細部の資料を収集しているの力を貸してほしいということであった。私は要望にこたえて現地を取材し、また、楠木正一氏からも資料や情報を戴いて関連する様々な歴史や経緯がわかってきた。その中には、B 29搭乗員11名中、墜落時3名は生存しており、この3名の生存者（捕虜）の命を確保するため地元民は食事を提供し、警察署長は軍の追及から捕虜の身辺を守り福岡の関係機関に何とか送り届けた。しかし、その後の記録によると米軍の福岡市への空襲の後、裁判を待たずして処刑されたといわれている。一方、八面山では、楠木正義氏たち村人により平和公園や記念館の整備が着々と進



図6. ジェリー・バルサー氏

められ、昭和45年5月7日大分県知事など多数の来賓や出席者のもと第1回の慰霊祭が行われ、築城基地からはF 86Fの編隊による慰霊飛行もあり、後年その同型機が展示されている。以後5月3日を慰霊祭、慰霊の集いの日として今日まで継続されてきた。従前は、各種団体の代表者や一般の参拝者など多数参加し、岩国の米軍や築城基地の基地司令も出席していた。近年は、主催されている地元の方々が高齢になり規模を縮小して行われている。そのような状況の中でマイク・バーグ氏は『B 29の乗員たちと日本の静かなる山』という本を完成させ、私の所に送ってきた。（図7）この本は、当院の元秘書岸本曉子氏によって翻訳され、『邪馬台』2013年夏号に掲載されている。なお、マイク・バーグ氏自身は2015年7月18日、八面山平和公園に来られ、中津ロケットクラブ富部直会長や楠木正一氏らの歓迎を受け、慰霊碑やブッシュ氏の桜、記念館などを訪れて、平和公園では桜を記念植樹され、（図8）更に宇佐の航空隊跡に足を延ばし、宇佐市平和資料館や掩体壕を見学、宇佐市で戦跡の発掘や保存の中心的な役割を果たされている教覚寺の平田崇英氏の案内で感動

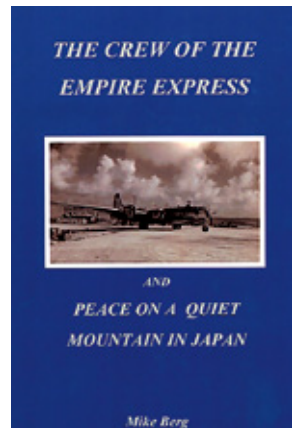


図7. B 29の乗員たちと日本の静かなる山の平和 原著



図8. 記念植樹 マイク・バーグ氏と

して帰られた。その後2016年1月21日には、戦死したバーナン・ゲリヤーツ軍曹の隣人ジン・ニッケル夫妻が、ゲリヤーツ軍曹の娘、テリーさんの依頼を受け感謝状を持参され、楠木正一氏に渡された。平和公園や記念館を見学し、中津市・宇佐市の医師の有志の会（くつわ会）の歓迎会に招かれ、皆さんの温かいもてなしで大変感動して帰られた。後日、写真集

を届けてくださった。その後更に2020年6月、マイク・バーグ氏から続編が届き、私たちとの絆を大切にされていることを改めて感じさせられた。（図9）この翻訳も当院の現在の理事長秘書である田長丸真弓氏によりなされ、私の書籍に集録されている。マイク・バーグ氏は11名の乗員はもとよりその遺族のことも実にきめ細かに調査されており、私たちが大いに参考にすべき内容である。何とかこれを出版する必要があるのではないかと考えていたところ、航空戦史研究家である深尾裕之氏が「記録を残さなければ、なかったことになってしまう」と独自で2021年6月に翻訳して出版し、県と中津市の図書館、八面山平和記念館、かわしまメモリアルミュージアムなどに寄贈された。（図10）この様な経過を辿った八面山平和公園であるが、私にとっても不思議なめぐり合わせであった感じがする。学校で教師を勤めた私の父親は日中戦争に従軍し、体中に130発の銃弾や破片を受け、「不死身の中尉」として新聞にも掲

載され金鷄勳章を授与されていた。その父が中津南高の教職に戻っていたところ、第二次世界大戦で突然、知覧の陸軍航空隊（特攻隊）の守備隊に志願し出征してしまい、猛爆の中で戦病死してしまつたことから、戦争に対しては非常に深い思いを私も持っていた。今回改めて、戦争は勝った側も負けた側も大変大きな犠牲を強いられるわけで、二度と戦争はしてはならないという思いを改めて深くした。

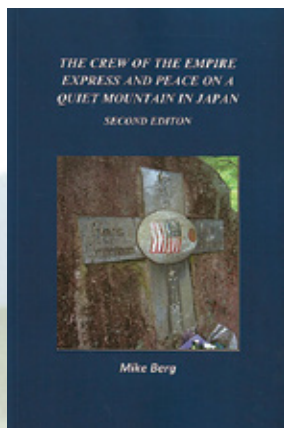


図9. B 29の乗員たちと日本の静かなる山 第2版



図10. 深尾裕之氏出版 B 29 "エンパイア・エクスプレス" の搭乗員と日本の静かなる山の中にある平和

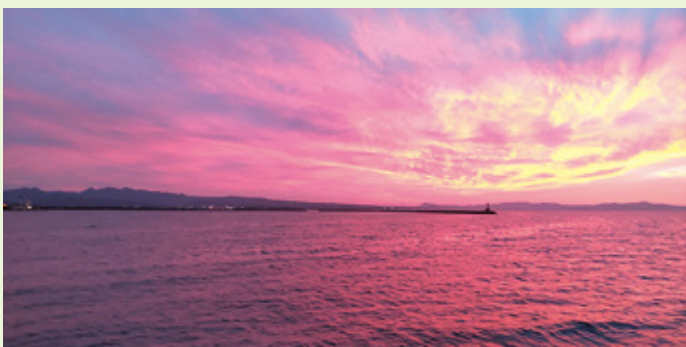


副院長
本山 達男

コロナ禍で昨年より旅行に行けなくなり、小倉や福岡市、大分市など街中に行くこともなくなりました。そのかわり山や海など自然に触れることが多くなり、最近では時々中津港などに釣りに行っている。海は毎回その表情が違い、時には穏やかな静かな海が広がっており、遠くまで広がる広大な景色が気持ちを和ませてくれる。また時には

荒れた海で、波しぶきが強く打ち付け、海が怒っているように感じることもある。日照りや潮の満ち引きや、風の強さや方向、時間などにより毎回違う海を見ることができる。夕まずめ時の海から見る夕焼けや夜景はきれいで、これも新たな発見であった。中津港の先端付近でスナメリ（小型のイルカ）を2回発見して驚いた。最初1m超える位の巨大魚らしき魚が背部だけ少し浮かせて泳いでいてびっくりしたが、2回目も同様に4-5匹ぐらいで泳いでいて、近くの釣り人にスナメリと教えてもらった。日出港でもスナメリが港内に入ってきた話を聞いたが、スナメリは釣り人には珍しいくないとのこと、また魚が逃げて歓迎されないようである。コロナはワクチン接種が進み収束に向かうか

と思われたが、デルタ型の変異株により8月中心に感染が広がり猛威を振るった。これからも新たな変異株発生が危惧され、まだ収束の見通しが立たない。旅行に行ったり、居酒屋でお酒を飲んだり、普通の生活に早く戻れるよう、コロナの収束を願ってやまない。



退任のぐい挨拶



医師
岡本 将希

医局人事にて、9月をもちまして川島整形外科病院を退任する運びとなりました。

医師として働き始めてから今回は4度目の異動でしたが、その中でも特に当院はコメディカルの方のサポートが非常に手厚いと感じました。各部署が連携し一丸となって診療に当たっている姿、また現状に満足することなく常に向上心を持って働いている姿を見て、自分の仕事に対する姿勢を改めて見つめなおすきっかけになりました。実際に診療を行っている

と、病気を治すことはもちろんですが、患者様一人ひとりの生活背景に合わせた細やかな配慮を感じます。こうした小さな気配りの積み重ねが地域の方々の信頼に繋がっているのだと思いました。

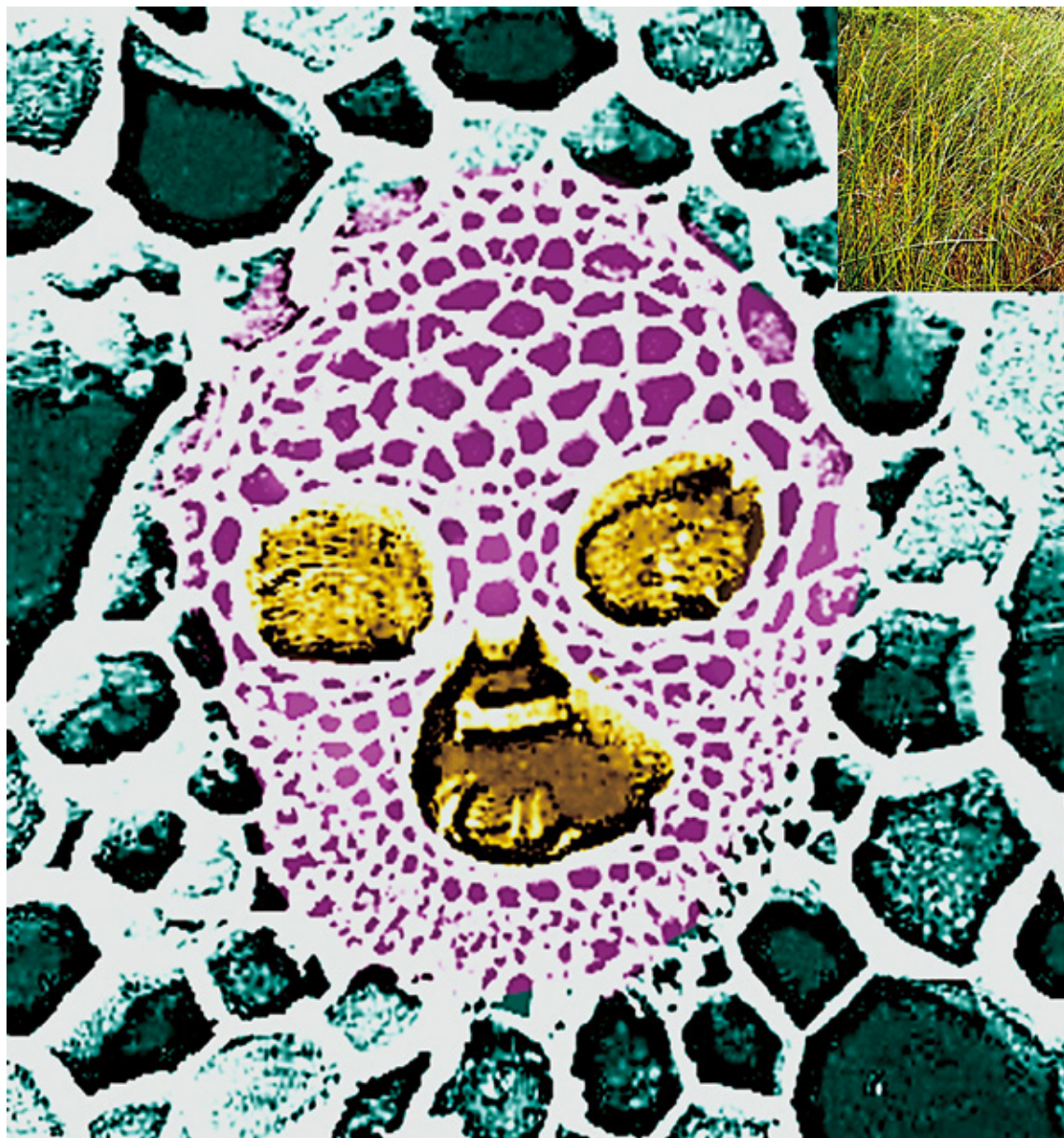
最後になりましたが、オーベンの佐々木先生を始め指導医の先生方には大変お世話になりました。一般外傷の他、手外科、関節鏡、人工関節など専門性の高い手術も幅広く行われており、6か月と短い期間でしたが多くの経験を積むことができました。

10月からは埼玉県の病院へ赴任致しますが、当院での経験を糧に信頼される医師を目指し精進して参りたいと思います。ありがとうございました。



電子顕微鏡が捉えたミクロの輝き： 覆面レスラー（七島藪）

川島整形外科病院名誉顧問・大分大学名誉教授 島田 達生



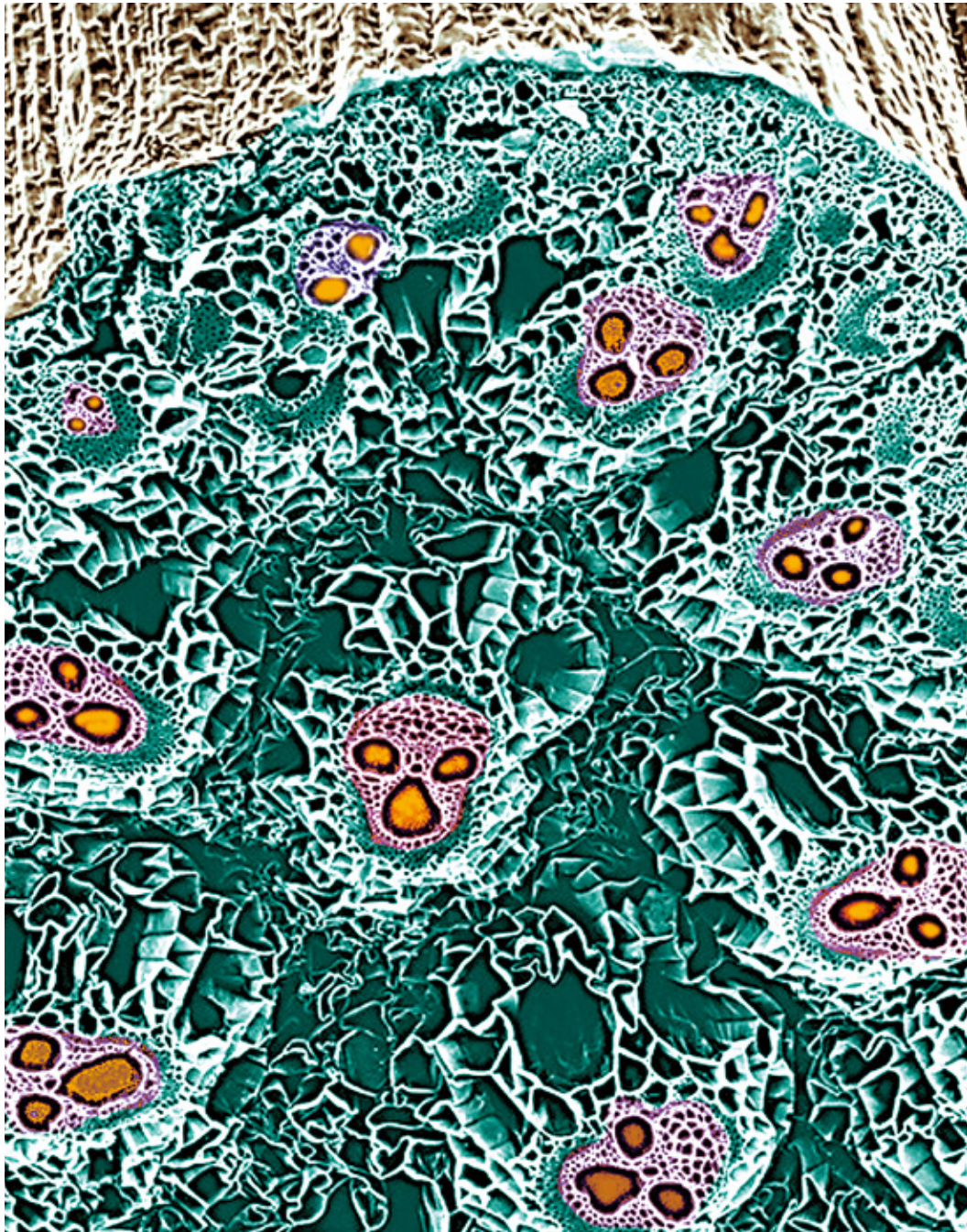
七島藪断面の直接倍率75倍の走査電子顕微鏡像

Scanning electron micrograph of sections in the Ryukyu Tatami

3つの大きな導管と周囲の小さな篩管から顔が表現されている。

その顔は力道山のライバル覆面レスラー、ザ・デストロイヤーに似ている。江戸時代、七島藪は国東半島一円に栽培され、杵築藩の大きな財源となったいた。七島藪は琉球畳ともいわれ、通常のイグサより丈夫であることから、嘉納治五郎はこれを柔道畳に使用した。東京オリンピック1964において、日本武道館の柔道畳は国東半島の七島藪が使用された。

笑顔が一杯（柔道畳）



七島藪断面の直接倍率30倍の走査電子顕微鏡像

Low magnification view of scanning electron micrograph of the Ryukyu Tatami

画面に覆面レスラーがいっぱい出ている。彼らは皆笑っているように見える。“笑う門には福来る”東京オリンピック2020、日本武道館柔道において、日本選手は多くのメダルを獲得し、関係者も皆笑顔で、幸せ一杯に見えた。七島藪は国東市安岐町の三浦梅園資料館近くの数軒の農家によって栽培されており、手織り機械で今も伝統的な畳表が作られている。

全日本病院学会 in 岡山での発表を経験して

回復期リハビリテーション病棟 主任 守口 尚美

2021年8月21日・22日に岡山で行われた全日本病院学会で発表を経験させていただきました。テーマは「整形外科専門病院におけるRRS（院内救急対応システム）の導入について」です。私は安全管理委員会に所属しており、日々院内の医療安全の確保に取り組んでいます。近年の高齢化社会により基礎疾患を有した入院患者が増加し、外傷や骨折により急な麻酔・手術を受けることで急変や基礎疾患の症状の悪化などをきたす恐れのある患者が増えているのが現状です。そのような事態に陥らない為に、医療安全管理部が中心となり、全部署の他職種が協力し早期に適切な診断を行い、治療を開始できるように取り組みを行っています。今回、その活動を報告させていただきました。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大によりWEBでの開催となりましたが、無事に発表を終えることができました。活動をまとめることで、成果や課題を改めて見直すことができました。今回の経験を活かし、玄真堂の安全な医療の提供のための活動を続けていきたいと思えます。



地域リハビリテーション広域支援センターの活動

リハビリテーション部 部長代理 杉木 知武

川畷整形外科病院が大分県福祉保健部健康対策課より北部圏域中津地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受けて18年となりました。

中津地域の体の不自由な方・高齢の方々が、住みやすく十分なリハビリテーションを受けられるよう活動・体制づくりを日々、行っています。最近の活動としては、中津市福祉部介護長寿課からの依頼を受け、公民館等の寄り合いの場へリハビリ専門職を派遣しています。中津市内から三光、本耶馬溪、耶



地域サロンでの運動指導

馬溪、山国地区へ、理学療法士・作業療法士が出向して具体的な運動指導を実施中です。コロナ禍で活動の制限もあります。感染対策を十分に実施し、運動頻度の低下予防、筋力・体力の低下予防に努めています。今後、地域リハセンターでは地域の皆様に役立つ研修会・講演会も開催予定です。

『あそこへ行けばとても良い医療・介護・福祉・リハビリがうけられる！』という地域を目指して、引き続き活動していきます。

《主な活動内容》

- 公民館での転倒予防教室・地域サロンへの専門職派遣
- 中津市地域ケア会議助言者の派遣
- 中津市介護認定審査員の派遣
- 高齢者骨折地域連携バス作業部会への参加
- 中津市運動で健康づくり推進員養成講座 元気ハツラツ教室講師派遣
- 医療・介護関係者への研修会・講演会開催
- 中津市地域包括支援センター運営協議会・中津市在宅医療介護連携推進協議会等への専門職派遣
- 北部圏域難病患者療養支援検討会等への専門職派遣 など



市役所での元気ハツラツ教室

侮るなかれ冬のかくれ脱水

栄養管理科 齋藤 潤哉

水分補給していますか？

脱水というと、夏のイメージかもしれませんが、実は冬でも気づかぬうちに体内の水分量が減ってしまい、身体機能に不調をきたす「かくれ脱水」の危険があり注意が必要です。

「かくれ脱水」今ならではの理由

①自粛により水を溜める臓器「筋肉」の減少

新型コロナウイルス感染症予防のため自粛生活を送らなければならぬ昨今。

外出する機会が減り、座る時間の増えた生活の中ではおのずと筋肉が衰え減少します。

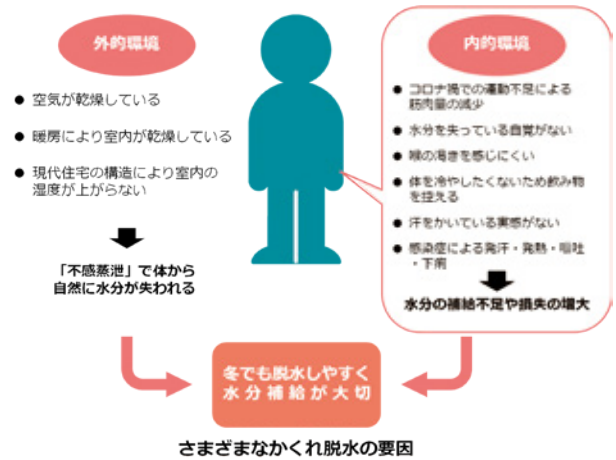
筋肉は水分の貯水池と言われ、約75・6%が水分でできています。そのため、筋肉量が減少すると体内の水分も少なくなります。

女性はもともと筋肉量が少なく、また、加齢による筋肉量の低下もあることから女性や高齢者は特に注意が必要です。

②空気の乾燥と水分摂取不足

外気の乾燥に加え、住宅の気密性の高さ、暖房器具の使用により室内の湿度はさらに下がります。この環境で生活をする、身体の水分がどんどん失われていきます（不感蒸泄）。

また、自身の「油断」により水分不足を招きます。夏は暑く、よく汗をかくので意識して水分補給をしますが、これから冬になると、水分不足について無関心になります。特に冬は「汗」ではなく「乾燥」として身体の水分が奪われていくため警戒心がうすくなります。また「身体を冷やしたくない」「寒い」などの理由によって飲み物を控えてしまうことも原因の一つとなります。



さまざまなかくれ脱水の要因

③感染による嘔吐下痢と発熱

冬場に多い感染性胃腸炎（ノロウイルスなど）を発症すると、激しい嘔吐や下痢などを繰り返します。これにより体液が大量に排出されると電解質も失われます。そのため、嘔吐や下痢を起こした際は日常よりも脱水になる危険性が高まります。また、インフルエンザなどを発症し高熱が出た場合も、体温調節のために発汗することから脱水の危険性が高まります。

「かくれ脱水」の予防・対処法

●運動習慣とバランスのよい食事

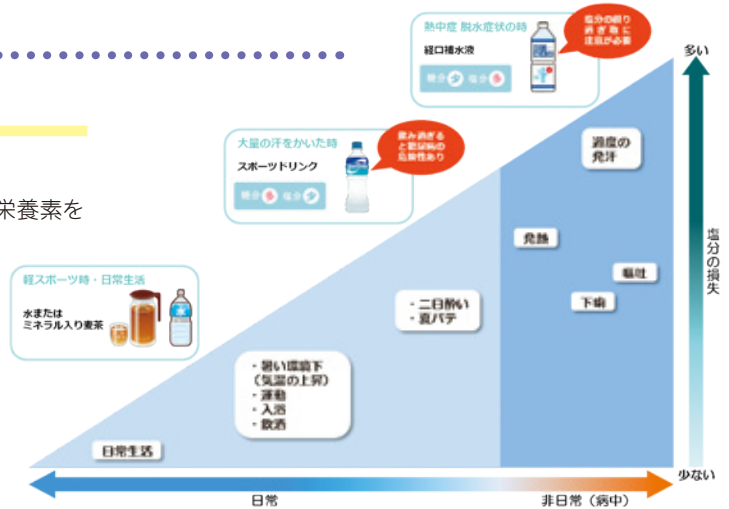
運動習慣をつけ、たんぱく質やビタミンなど筋肉を作る栄養素を摂るよう心がける。

●加湿と換気

部屋に加湿器などを置き湿度を50～60%に維持し、2～3時間に1度のペースで5分ほどの換気を心がける。

●早めの水分補給

手元に飲物を常備し、喉の渇きを感じる前にこまめな水分補給を心がける。



水分摂取のポイント

日常生活時

→ 温かい白湯やお茶など体を温めつつ水分を補える飲料

嘔吐・下痢・高熱時

→ 電解質も同時に失っている。水だけでは適切な水分補給ができないため塩分濃度が0.1～0.2%のスポーツドリンク

脱水症時

→ 迅速に水分補給をする必要があるため水分吸収速度が速い経口補水液



150mlのお水を8回飲めば合計1.2ℓ!



脱水の「予防」と「改善」では、水分補給のための飲料が異なることを知っておくことが大切です。経口補水液を用いる際は、少量ずつゆっくりと飲むのがポイントです。嚥下機能が低下している場合は、ゼリータイプの経口補水液を用いるのもひとつの方法です。

反響の大きかったブログをご紹介します

私たち在宅事業部は「かわしまさんの介護のすゝめ」というブログを更新しています。

在宅事業部の看護職、リハビリ職、介護職、ケアマネジャー、ソーシャルワーカーなど様々な職種のスタッフが、ブログにそれぞれの思いをのせて発信しています。

今回は、反響の大きかった内容とそのブログの見方を紹介します。

「認知症の母と父の変化」 2021/3/23 更新

通所リハビリテーション科のきょんです

前回のブログにて、認知症の母の嚙下が難しくなり、ペースト食へ変更する際、

「少しでもいいから、お米や野菜を食べさせたい」

「こんなじゃ何を食べてるかわからん」と明らかにショックを受けている父を説得したこと、胃ろうからの摂取はお断りしている状態であると書きました。

あれから5カ月・・・

コロナ禍にて、会うことは出来ず、たまにリモートで見る母の姿でも「日に日に弱っているなあ。覚悟をしなければいけないのか。」と感じていた時、施設より「今後について話し合っておきましょう。」と、連絡がありました。母がお世話になっているこの施設は「看取りをしているんだなあ」とか、「最期は自宅を迎えさせてあげるって約束したなあ。父は大丈夫だろうか？」等々頭を巡りました。施設の方とお話をする前は、何日にも渡り父と息子達とで話し合いをしました。

これまで「胃ろうからの摂取はしない。」「口から食事が摂れなくなったら、最期は自然にまかせる。」と言っていた父が、「今（コロナ禍で）お母さんと全然違ってなくてなあ。」「最期のさいごには面会させてくれると言っても、お母さん意識あるかなあ。」「前みたいに、毎日毎日逢ったら、自然にまかせてもいいと思ってたけどなあ。」と言った父に、「間に合うなら、胃ろうからの栄養摂取する？それとも看取りの話をする？」と聞いたのは私でした。息子達からは「お母さんは絶対（胃ろうを）望んでないよ。しないで欲しいと思ってるよ。」など兄弟でいろんな意見がありました。

考えに考えて・・・出した結果は、【胃ろう造設しました】退院時に徐々に逢った母は、顔色良好！無表情が多い母の笑顔が！その母を見た父の表情がパッと明るくなりました。この父を見た時、この選択でよかった。今後、悩むことがあってもやっぱり良かった。父のこの顔を「私は絶対に忘れない」と思います。口から味わうことに絶対的にこだわった父が今は、「生きる為に必要な栄養は口からじゃなくても摂る事が出来る！」と言っています。母を想い父の思いを聞く時、私はよく考える事がありません。当施設をご利用くださっている利用者様やそのご家族の気持ちにちゃんと寄り添える介護職員になりたいと。

在宅事業部ブログ「かわしまさんの介護のすゝめ」の見方

(1) 川島整形外科病院のホームページから



ここをクリック



過去のブログも見られます

(2) その他から

↓こちらからもアクセスできます

かわしま 在宅 ブログ

検索



<https://ameblo.jp/kawashima-care/>



スタッフ1人ひとりの思いが詰まっています。

ぜひ、一度覗いてみてください!!



院内勉強会

モーニングセミナー

- 2021.6.18
「CRPS って知っている？」
佐々木診療部長
- 2021.7.16
「心理的安全性」
渡邊医長
- 2021.8.20
「陥入爪と巻き爪」
後藤診療副部長

カワシマハンドセラピィ研究会

- 2021.6.21
症例報告
川端、永田作業療法士
「橈骨遠位端骨折（リハビリ：保存・VLP固定・pinning・創外固定）」
安田作業療法士
- 2021.7.19
症例報告
岸本リハビリテーション部副主任・石井作業療法士
「舟状骨骨折（分類、診断、治療）」
奥貞作業療法士
- 2021.8.16
症例報告
杉本リハビリテーション部部長代理・中埜作業療法士
「舟状骨骨折（リハビリ：新鮮保存・新鮮手術、偽関節手術）」
永田作業療法士

川島肩をカタらう会

- 2021.6.28
「上腕骨近位端骨折後の作業療法」
永田作業療法士
- 2021.7.26
「インピンジメント症候群について～肩峰下インピンジメントに着目して～」
中野郁也理学療法士
- 2021.8.30
「肩関節不安定症」
岩本理学療法士

膝関節勉強会

- 2021.6.9
「TKAについて」
田畑理学療法士
- 2021.7.14
「膝蓋骨骨折について」
河内理学療法士
- 2021.8.11
「大腿骨骨幹部骨折について～膝関節機能障害に着目して～」
前田理学療法士

看護部勉強会

- 2021.6.19
看護管理者研修会 育成メンバー研修「倫理」
- 2021.7.10
新人前期学習会Ⅱ「周術期看護」
- 2021.8.2
「重症度、医療・看護必要度」

院外発表・講演

- 2021.6.6
親鸞聖人降誕会 (中津市)
「中津藩種痘とウイルスパンデミック」
川島理事長講演
- 2021.6.13
第58回日本リハビリテーション医学会学術集会(Web)
「医学史から見た新型コロナ感染症とその行方」
川島理事長講演
中津地方文化財協議会 (中津市)
「ウイルスパンデミックと中津藩の種痘」
川島理事長講演
- 2021.7.3
第21回九州高気圧環境医学会 (中津市)
「コロナパンデミックの予防とオゾンナノバブル」
川島理事長講演
「発症から1週間以上経過した脊髄型減圧症に対する再圧治療の有効性の検討」
山口高気圧治療科統括科長発表
「当院における手部の外傷に対する高気圧酸素治療」
宮田高気圧治療科副主任発表
- 2021.7.4～5
第6回日本予防理学療法学会サテライト集会 (Web)
シンポジウムⅠ 予防理学療法未来を支える刷新的提言「即時的効果を体感できる意味」
「運動器疾患に対して即時的効果を体感できる意味」
羽田リハビリテーション部主任講演
- 2021.7.27
令和3年度 中津地区公民館連合会 公民館振興大会・第1回社会教育研究集会 (中津市)
「中津藩種痘とウイルスパンデミック」
川島理事長講演
- 2021.7.28
中津薬剤師会・大分県病院薬剤師会中津支部合同研修会(なのみの会) (Web)
「整形外科病院におけるリウマチ診療の現状」
川島院長講演
- 2021.7.31
中津市歴史博物館企画展「伝染病との戦い」記念講演 (中津市)
「中津藩の種痘とコロナパンデミック」
川島理事長講演
- 2021.8.21-22
第62回全日病院学会in 岡山 (Web)
「病院のあり方に関する報告書 2021年版」の議論から第2章「想定される2040年の世界」
川島院長発表
「当院における減圧症の治療状況」
宮田高気圧治療科副主任発表



2021.6.1

基節骨骨折に対しPlateを用いた骨接合において伸筋腱縦割、伸筋腱を避けた術野展開の術後可動域の比較

後藤診療副部長

2021.6.8

小・中規模の腱板断裂における手術、理学療法の10年間の前向き比較試験

岡本医師

2021.6.22

非選択的NSAIDs、COX-2阻害薬とオピオイドの偽関節のリスク

豊島医師

2021.6.29

小児ACL不全膝における半月ランプ領域損傷の罹患と診断

本山副院長

2021.7.6

若者の鎖骨骨幹部骨折に手術は不要である

古江副院長

2021.7.13

ロボットアーム支援THAとマニュアルTHAの比較

川島院長

2021.7.27

大腿骨近位部骨折における術前心エコー検査が手術待機時間や手術成績に与える影響

渡邊医長

2021.8.3

関節鏡視下腱板修復術後の上腕二頭筋長頭腱に何が起きているのか？

佐々木診療部長

2021.8.10

保存療法で治療した上腕骨近位部骨折に対する1週間と3週間の固定期間の比較

岡本医師

2021.8.24

化膿性屈筋腱鞘炎の予後因子

豊島医師

2021.8.31

特発性手根管症候群に対するステロイドの作用メカニズムの分子及び臨床的解明

後藤診療副部長

論文（共同含）・誌上発表

- 川島眞人: 須磨幸蔵先生を偲ぶ, 田原通信 総集編, 98-99, 2021
- 川島眞人: 大江家のルーツと医訓, 中津市医師会会報 第62号, 32-35, 2021
- 川島眞人: 医学史から見た新型コロナ感染症とその行方, 第58回 日本リハビリテーション医学会学術集会, 542, 2021
- 川島眞人: 会長挨拶, 会報第57号 三毛の文化, 1, 2021
- 川島眞人: 新型コロナウイルスのパンデミックから学ぶ ナイチンゲール、前野良沢の自然思想 令和2年7月18日講演, 会報第57号 三毛の文化, 2-11, 2021
- 川島眞人: コロナパンデミックの予防とオゾンナノバブル, 第21回九州高気圧環境医学会, 26-27, 2021

編集後記

秋晴れの空の下、いつもの年でしたら子供たちの元気な笑い声や応援する声が響き渡る運動会の季節ですが、見守る保護者の人数や応援が制限されたりで頑張ってきた子供たちが、少し悲しい気持ちになっ
ていることを思うと切ない気持ちになります。もともと子供たちが
が自由のびやかに、自分の頑張ってきたことや自分のやりたいこと
が出来るようになる日が一日でも早く来るのを願って、私たち大人も
もうひと踏ん張りしてこの状況を乗り越えたいですね。
(T・T)

【患者様の権利と患者様の責務】

患者様は、個人としての尊厳が守られ、平等で最善の医療を受ける権利を有するとともに、医療を効果的にするために守って頂きたい事項があります。

〔患者様の権利〕

1. 病気の種類や個人的背景に関係なく、平等に医療を受ける権利があります。
2. 人格は尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで最善の医療を受ける権利があります。
3. 医療に関して十分な説明、情報を求める権利があります。
4. 医療内容について自分で選択し決定する権利があります。
5. 自己の意思に反する医療を拒否する権利があります。
6. 自己の診療記録の開示を求める権利があります。
7. プライバシーや個人情報保護される権利があります。
8. 健康維持のため教育やサービスを受ける権利があります。
9. 安全を確保される権利があります。

〔患者様の責務〕

1. 医療提供者に対し、患者様ご自身の健康に関する情報の提供
2. 他の患者様の療養生活に支障を与えない配慮
3. 早期回復の為、医療提供者が定めた規則の遵守
4. 円滑な医療行為の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
5. 早期回復の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
6. 診療費の遅滞ない支払い